

日本産水産物・水産加工品 PR セミナーおよび商談会 IN 成都実施報告書

主催：水産物・水産加工品輸出拡大協議会
実施・企画運営・報告書作成：ジェイシートレンド株式会社

水産物・水産加工品輸出拡大協議会（事務局：一般社団法人大日本水産会）は、2020年1月9日（木）に中国・成都市内にある「JW MARRIOTT HOTEL CHENGDU」にて「日本産水産物・水産加工品 PR セミナーおよび商談会」を実施した。関係者、出展企業は下表の通り。

（団体・企業名）
全国水産加工業協同組合連合会
全国漁業協同組合連合会
一般社団法人 全国海水養魚協会
日本水産缶詰輸出水産業組合
勝木食品工業株式会社
ジェイシートレンド株式会社



PR セミナーの広告

1. 成都について

成都は、四川省の省都であり、人口約1,600万人を擁する大都市である。成都市単体では、中国全土平均の1.5倍もの1人

当たり GDP を持つ消費力を持ち合わせている。（中国全体：約5万元、成都市7万5000元）また、一帯一路計画における中国西部側の中心都市であり、インフラ投資が集中しているなど、今後の成長見込みも高い。

この背景により、成都市内に日系スーパーのイトーヨーカドー（以下成都 IY）が進出しており、2019年1月に開店した店舗を含めて現在9店舗を展開している。9店舗合計の年間売上規模が700億円に達し、1店舗当たりの規模で見ると日本の大型小売店を上回る規模である。

2. セミナー実施の目的

成都是中国の内陸ではあるが、昨今海産魚介物の消費が伸びている。また、市内の和食料理店数が1,700店舗を超え、日系でイトーヨーカドーやすき家、はま寿司が展開するなど、生食や海水魚の消費拡大余地が大きい。昨年度実施した水産物・水産加工品 PR セミナーにおいては、現地パイヤーからの日本産品への品質評価が高く、商品案内問い合わせもあった。また、可処分所得も高く、既存輸出品の日本産養殖ブリも含めて輸出価格に対応可能であることから、既存商品の販売促進および新規商品の輸出拡大を目標にセミナーおよび商談会を実施することとした。



JFOOD 様より頂いたプリの販促 POP

3. セミナー概略

14 時より受付を開始、14 時半よりセミナーを開催した。輸入・卸し、レストラン、ホテル、小売りなど 26 社の仕入れ担当やシェフなど計 40 名の招待者が集まった。

まず、日本料理店東凛閣を経営する陳氏より以下の挨拶があった。

- ① 成都にて日本産水産物・水産加工品 PR セミナー開催されることへの謝意
- ② 成都の経済成長が進むにつれて、飲食業界が発展し、日本料理店が増加傾向にある
- ③ 成都市内で日本料理店が増加傾向にあるにも関わらず質の高い水産物・水産加工品の入手が困難
- ④ 今回の PR セミナーにて提案する商品の質はとて高いため、ぜひ成都の食品業界関係者の皆さんにご試食・商談頂きたい



陳様によるセミナーの挨拶

次に、日本産水産物・水産加工品の紹介および PR として、全国漁業協同組合連合会（以下全漁連）河野室長より「日本の鯖について」、一般社団法人全国海水養魚協会（全海水）中平専務より「日本産養殖ぶりについて」、日本水産缶詰輸出水産業組合小磯参事より「成都の皆様へ～日本産水産缶詰製品でお手軽に和食をどうぞ～」、全水加工連相馬部長より「日本の水産加工品」と題してセミナーを実施した。



全漁連・河野室長による PR



全水加工連・相馬部長による PR

主な概要は、①日本産水産物・水産加工品の紹介、②日本ではどのようにして水産

物・水産加工品を食べているのか、③高品質な日本産水産物・水産加工品はどのような技術で製造されているのか、④ぜひ成都の皆様にも日本産水産物・水産加工品をたくさん味わって頂きたい、といった内容であった。



水産缶詰組合小磯様によるPR



全海水中平専務によるPR



枕崎ふえん鯉の展示



干物商品の展示



かにみそのアレンジ料理

4. 試食商談会

各団体によるPRセミナー終了後、提案する商品の試食および商談会を実施した。今回提案を行った日本産水産物・水産加工品アイテムは、①ほたて貝柱ステーキ、②かにみそ、③いかめし、④小エビの唐揚げ、⑤ソフトにしん、⑥さば水煮缶詰、⑦ぶりフィレ、⑧しめさばなど21品目であった。どの商品も好評で、アンケート結果を確認すると①ホタテ、②サバ、③ブリ商品の人気が高かった。



試食商談会風景

5. 終わりに

今回のセミナー開催に尽力頂いた成都市内で日本食料理店を経営する陳様のお話にあったように、成都では日本食料理店の数が急激に増加し、日本食や日本産水産物・水産加工品に対する関心も高まっている。成都の所得が上昇していることや、成都市民は、食や自分の関心のあるものへの出費は惜しまないという気質があるため、日本産水産物・水産加工品の販売促進および定着するチャンスが訪れていることは間違いない。

現在、成都市内の食品関連企業で好調を維持しているイトーヨーカドーといった日系小売店や日本食料理店等へのPRを続け、ブリだけでない水産物・水産加工品の販売促進に取り組みたい。